

- (4) A 温泉に行かないか オンセンニ イケヘンカ
 B 温泉に行かれませんか オンセンニ イッテヤナイカ
 C 温泉に行かれませんか オンセンニ イッテヤナイカ
- (5) A しますか シテヤ
 B されますか シテヤ
- (6) A 見ましたか ミチャッタカ
 B 見ましたか ミチャッタカ
- (7) A 何時に寝ましたか ナンジニ ネチャッタカ
 B 何時に寝ましたか ナンジニ ネチャッタカ
 C 寝てください ネットクダサイ
- (8) A どこに行っているか ドコ イキヨッテン
 B どこに行っていますか ドコ イキヨッテン
 C どこに行っていますか ドコ イキヨッテン/イキヨラハリマスカ (町長・住職に対して)
- (9) A どうぞ食べてくれ タベテーナー
 B どうぞ食べてください タベテーナー
 C どうぞ食べてください タベテーナー/メシアガッテクダサイ (法事などの公の場では)
- (10) A 見せてくれないか ミセテーナー
 B 見せてくださいますか ミセトクレ
 C 見せてくださいますか ミセトクレナー
- I - 2 第三者敬語
- (11) A 居るだろう オッテヤヤロカナ
 B 居るだろう オッテヤヤロカナ
 C おられるでしょう オッテヤゲナデ
- (12) A 居なかった オッテヤナカッタナ
 B 居なかった オッテヤナカッタナ
 C 居なかった オッテヤナカッタデ
- (13) A そう言った ユートッチャッタデー
 B そう言った ユートッチャッタデー
- (14) A 行っていた イッチャッタデ
 B 行っておられた イットッチャッタデ
 C 行っておられた イットッチャッタデ
- (15) A 来ている キトルデ
 B 来ている キトッテヤデ

- C 来ている キトツテヤ
- (16) A している シトツテヤデ
 B している シトツテヤデ
- (17) A 見せてもらった ミセテモロータデ
 B 見せてもらった ミセテモロータデ
 C 見せてもらった ミセテモロータデ
- (18) A 見せてくれた ミセテクレチャッタデ
 B 見せてくれた ミセテクレチャッタデ
 C 見せてくれた ミセテクレチャッタデ
- (19) A くださった クレチャッタ
 B くださった クレチャッタ
- (20) A いただいた モロタ
 B いただいた モロタデ

II. 謙譲表現

II-1 謙譲表現

- (21) A 私も ワタシ
 B 私も ウチモ
 C 私も ウチモ
- (22) A 十分に食べました ヨーケ ヨバレタデ
 B 十分に食べました ヨーケ ヨバレタデ
- (23) A 持ちましょう モッタゲルワ
 B 持ちましょう モッタゲルワ
- (24) A 待たせたね マタセテ ゴメンヨ
 B お待たせしました オマタセシマシタ
 C お待たせしました オマタセシマシタ
- (25) A 待っているよ マツトルデナー
 B 待っていますよ マツトルデ
 C 待っていますよ マツテマスデ
- (26) A 言ってくれ ユートイテヤ
 B 言ってくれ ユートイトクレーナー
 C 言ってくれ ユートイテナー／ユートイトクレーナー
- (27) A これをやろう コレ ヤロコ
 B これあげましょう アゲヨカ
 C これあげましょう アゲヨカ

II-2 身内敬語

- (28) A 買ってやった コーチャッタンヤ
 B 買ってやった コーチャッタンヤナ
 C 買ってやった コーチャッタ
- (29) A 主人はもう帰っている モートツテヤ
 B 主人はもう帰っています カエッテマスデ

III. 丁寧表現

- (30) A 行くよ イクデ
 B 行きます イクデ
- (31) A 寒いね サムイナー
 B 寒いね サムイナー
 C 寒いね サムイデスナー
- (32) A 居るよ オルデ
 B 居ます オリマス
- (33) A よかったねえ ヨカッタナー
 B よかったですねえ ヨカッタナー
 C よかったですねえ ヨカッタデスナー
- (34) A そうか ソヤナー
 B そうですか ソーカー
 C そうですか ソーヤナー

IV. 人間関係に応じた待遇表現

IV-1 特定表現の待遇表現

- (35) 曲がって マガッテ
 (36) とんでもない 該当表現なし

IV-2

- (37) 引き受けます オウケシマス
 (38) 参加してほしい サンカシテクダサイ

IV-3 位相による待遇表現

- (39) 1. お寺の住職さん (A)オハヨーゴザイマス (B)ドコイカハリマス
 2. 校長先生 (A)オハヨーゴザイマス (B)ドコイカハリマス
 3. 見知らぬ年配の男性 (A)オハヨーゴザイマス (B)ドコイカハリマス
 4. 見知らぬ年配の女性 (A)オハヨーゴザイマス (B)ドコイカハリマス
 5. 顔見知りの年上の男性 (A)オハヨーゴザイマス (B)ドコイッテヤ
 6. 顔見知りの年上の女性 (A)オハヨーゴザイマス (B)ドコイッテヤ
 7. 10才ほど年下の見知らぬ男性 (A)オハヨーゴザイマス (B)ドコイカハリマス
 8. 10才ほど年下の見知らぬ女性 (A)オハヨーゴザイマス (B)ドコイカハリマス

9. 同級生の男性 (A)オハヨ^ー(B)ドコイクン^ンジャイヤ^ヤ
 10. 同級生の女性 (A)オハヨ^ー(B)ドコイクン^ンジャイヤ^ヤ
 11. 10才ほど年下の顔見知りの男性 (A)オハヨ^ー(B)ドコイクン^ンジャイヤ^ヤ
 12. 10才ほど年下の顔見知りの女性 (A)オハヨ^ー(B)ドコイクン^ンジャイヤ^ヤ
 13. 近所の中学生の男の子 (A)オハヨ^ー(B)ドコイクン^ンジャイヤ^ヤ
 14. 近所の中学生の女の子 (A)オハヨ^ー(B)ドコイクン^ンジャイヤ^ヤ

Ⅲ. まとめ

(1)敬意の段階

当該調査地域においては、「て」敬語法、「ハル」敬語、標準語の敬語が行なわれている。日常生活レベルで最も盛んな待遇表現形式は「て」敬語法である。並びに、「ハル」敬語も存在していて、「て」敬語法よりも待遇価が高い。例を挙げると、項目(8)では、近所の年長者、土地の目上の人には「ドコ イキヨッテン」と「て」敬語法であるが、町長、寺の住職に対してなら、「ドコ イキヨハラリマスカ」と「ハル」敬語となっている。項目(3)においても、「アシタ イカハラリマスカ」というのは「町長はんぐらいやなあ」という教示を得た。項目(39)においても、寺の住職、校長先生、見知らぬ年配の男性、見知らぬ年配の女性、10才ほど年下の見知らぬ男性、10才ほど年下の見知らぬ女性に対しては「ハル」敬語である。寺の住職、校長先生に対しては、社会的地位の高さから待遇価の高い「ハル」敬語を使っていると考えられる。知らない人に対しては、年上、年下にかかわらず、「ハル」を使うという教示を得た。これらのことから、「て」敬語法は身内で使う言葉であり、「ハル」はあらたまった相手に対して使っていることが分かる。(2)二人称代名詞

「アンタ」「オタク」と使い分けが見られる。「アンタ」は「ゲンキカ」「ゲンキニシトツテカ」と結びついていることから、気やすい相手に対して使っていることが分かる。「オタク」は「ゲンキデスカ」と、標準語の敬語と結びつくことから、改まった相手に使われることが分かる。字野に対して「オウチ」の使用がみられた。

○タ「ンマ」ニワ 「ヨ」ソカラ オウチ「ミ」タイニ 「ヨ」ソカラ ミ「エ」タヒ「トニワネ」エ。 アノ ソレ ソーユーコト イーマス「デ」。

(たまはよそから おうちみたいよそから来た人にはね あ それ そうゆうことを言いますよ。)

(3)アスペクト形式としての「トル」「ヨル」

項目(8)では進行態として「ヨル」が現れる。しかし、項目(16)では進行態として「トル」がみられる。存続態は、項目(15)において「トル」がみられる。これらの項目においては「ヨル」「トル」は軽卑感を含んでいないといえる。

(4)指定の助動詞「ヤ」の保持

項目(11)「オッテヤヤロカナ」項目(12)「オッテヤナカッタナ」

本調査地域と同様に「て」敬語法を使用する兵庫県西部の播州地方の山崎町では、項目(11)は「オッテヤロカー」、項目(12)は「オッテナカッター」と指定助動詞「ヤ」が脱落している。しかし、本調査地域では脱落がみられず、指定助動詞「ヤ」が保持されているといえる。

(5)文末詞「コ」

また、本地域に見られる特徴的な事象として、文末詞「コ」がある。男性において頻度の高い事象であるといえる。項目1Aでは、男性の場合「オマエ ゲンキコー」となる。項目2Aでは、男性の場合「アシタ オマエ オルコ」となる。項目6Aでは「ミタコ」となる。項目7Aでは「ネタコ」となる。使うのは「同僚に対して」という教示を得た。「コ」は、文末詞「カイ」に対応していることが分かる。しかし、項目27Aでは、男女とも「コレ ヤロコ」となる。この項目においてのみ女性で「コ」がみられるのはなぜであろうか。この場合の「コ」は疑問というより、誘いかけの機能を持つ。疑問の「コ」は女性が使うにはきつい響きを持っているのかもしれない。

(6)文末詞「ナー」「デ」

文末詞「ナー」「デ」はよく現れる。「ナー」を付けるより、「デ」を付けたほうが丁寧という教示を得た。

○タ「ンマ」ニワ 「ヨ」ソカラ オウチ「ミ」タイニ 「ヨ」ソカラ ミ「エ」タヒトニワネ「エ アノ ソレ ソーユーコト イーマス」デ。(たまには よそから おうちみたいによそからみえた人にはね あ の それ そうゆうことを言いますよ。)

○(略) グライ「ワ ユー」デ(〜くらいは 言うよ。)

○アノー ソラ ココ ゼンゼンシラン「ヒ」トヤッター「ナー ミチオ キカ」ハッター「キ」ノーモ キカ「ハッ」タケド アノー アソコ「ニ」ヒ「トガ アノ オラハルト「コ アソコデス」デッ「トカ ユーコト」オ ワタシラワ ユー「サ」カイ「ネー。(あの そら ここ全然知らない人だったらね 道を聞かれたら 昨日も聞かれたけど あのー あそこに人が あのーいっしょるとか あそこですよとかゆうことを 私たちは言うからね。)

○ソ「ラ カド」マ「ガッ」テ ホカ ユー「ヨーガ」ナイ「ガ」ナ。(そりゃ 角を曲がってというほか 言い方がないよ。)

○ソーユー「フ」ーニ ナッテキ「マ」シタガ。(そういう風になってきましたよ。)

○ユワ「ハ」ルサカイネ。(おっしやるからね。)

本地域は「ハル」敬語の盛んな京都市とは地理的には近いにもかかわらず、その用法はかなり異なっている。本地域では「ハル」はあらたまった相手に対して使われており、「て」敬語法より待遇価が高い。「て」敬語法は日常生活において、お互い顔を見知っている身内での待遇表現形式として、根強く行なわれている。

(うの ひろし 大阪教育大学大学院在学中)